

連載

株式評論家 山本伸一の

兜町スタンダード



「5月売り」への対応策を考える

決算発表シーズンを終え、株価指数に調整色が漂い始めるなど、全体観もやや下向きに。まさに「5月売り」を指すアノマリーに沿った展開になりつつある。

米国市場には『Sell In May and go away』として、株式投資を5月で手仕舞い、10月までは見送りを指す「5月売り」のアノマリーが知られるが、米国株価指数も上値の重い展開に移行してきた。

国内も決算シーズンを終え、前回コラム「次期予想『非開示』をどう見るか」で「まだまだ『業績不透明感の残る状況』はしばらく続くのではないだろうか」と記していたが、実態評価や成長性の判断基準となる業績予想「非開示」が相場の重しとなっているのは疑いようがない。

ただ、全体観が下向きになるなかでも状況を呈しているのが、今期の業績計画を明確に示し、成長路線を邁進する高成長株の一角だ。「5月売り」のなか、個別視点での資金流入を呼び込んでいる。

そこで弊社では、独自成長を遂げる成長株に着目した「厳選5銘柄付き緊急市況レポート」を発売することにした。厳選銘柄やレポートに興味を持たれた方は、弊社に直接問い合わせしてほしい。